

～小児(5歳から11歳のお子様)の保護者のみなさまへ～

- ・ 新型コロナワクチンは、5歳以上のお子様も受けられるようになりました。
- ・ 接種券が届いたら、ワクチン接種のメリットとデメリットを踏まえて、お子様と一緒に十分話し合ってください。その上で、ワクチン接種を受けるかどうか決めましょう。
- ・ 特に、「基礎疾患を有するお子様とその同居のお子様(きょうだい等)、かかりつけ医が接種をすすめるお子様」には、接種が推奨されています。

メリット(期待できること)	デメリット(副反応)
<p>「重症化を予防する効果」が期待されます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オミクロン株に対して、入院などの重症化を74%減らしたという報告も見られます。^{※1} ・ 慢性呼吸器疾患、先天性心疾患、高度肥満など、重症化リスクの高い基礎疾患を有するお子様には、接種をおすすめしています。詳しくは、かかりつけ医にご相談ください。 ・ なお、小児は成人に比べ、そもそも感染による重症化リスクが低いことが報告されています。^{※3} <p>「発症を予防する効果」も期待されます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接種すると体内に免疫ができ、新型コロナウイルスの症状が出にくくなります。 ・ オミクロン株に対しては、18歳以上の方の発症予防効果(2回接種から2～4週間後65～70%)が報告されており、小児へのワクチン接種も効果が期待されています。^{※4} 	<p>接種後に副反応が出る可能性があります</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接種後、注射部位の痛み、倦怠感、熱などの副反応はしばしば見られます。インフルエンザなど従来お子様が受けるワクチンに比べ副反応の頻度は高いですが、ほとんどは2～3日以内に回復します。 ・ なお、12歳-15歳と比べると症状が出る頻度は低いことが報告されています。^{※5} ・ ごく稀に小児でもワクチン接種後の心筋炎の報告がありますが、12歳から17歳の男性と比較して報告率は低く、いずれも軽症でした。^{※6} <p>(※1) CDC 発行雑誌 MMWR(Morb Mortal Wkly Rep).2022 Mar4;71(9):352-358. (※3) 第30回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会(令和4年2月10日)鈴木委員提出資料 (※4) 英国健康安全保障庁(UKHSA) 2022.2.3 (※5) コミナティ筋注5-11歳用添付文書及びコミナティ筋注添付文書 (※6) 2022.1.5 ACIP Meeting</p>

- (※2)基礎疾患の例示
- ①慢性呼吸器疾患
 - ②慢性心疾患
 - ③慢性腎疾患
 - ④神経・筋疾患
 - ⑤血液疾患
 - ⑥糖尿病・代謝性疾患
 - ⑦悪性腫瘍
 - ⑧関節リウマチ・膠原病
 - ⑨内分泌疾患
 - ⑩消化器疾患・肝疾患
 - ⑪HIV感染症・その他の疾患や治療に伴う免疫抑制状態
 - ⑫高度肥満

- ご家族で相談しても決められない場合や不安な場合は、かかりつけ医に相談しましょう。
- 何らかの理由でワクチン接種をしない人に対する差別はやめましょう。

ワクチンを受けた人も、今までのように、手洗い・消毒、マスク、三密の回避などの感染予防対策を続けましょう。